

## 「知を育むあいち」～知を生み、育て、活かす地域づくり～

優れた知財が社会に還元されるためには、知を「生む人」と「使う人」双方が知財を理解し、大切にすることが必要となります。このため、知財に直接関わる人だけではなく、広く県民を対象とした、気運醸成の取組が重要となります。

特に、インターネットを通じたモノや情報の入手・発信が容易となったことから、誰もが意図せず知財を侵害してしまう危険と隣り合わせになっており、青少年及びその親に対しても、啓発等の取組を継続的に実施する必要があります。

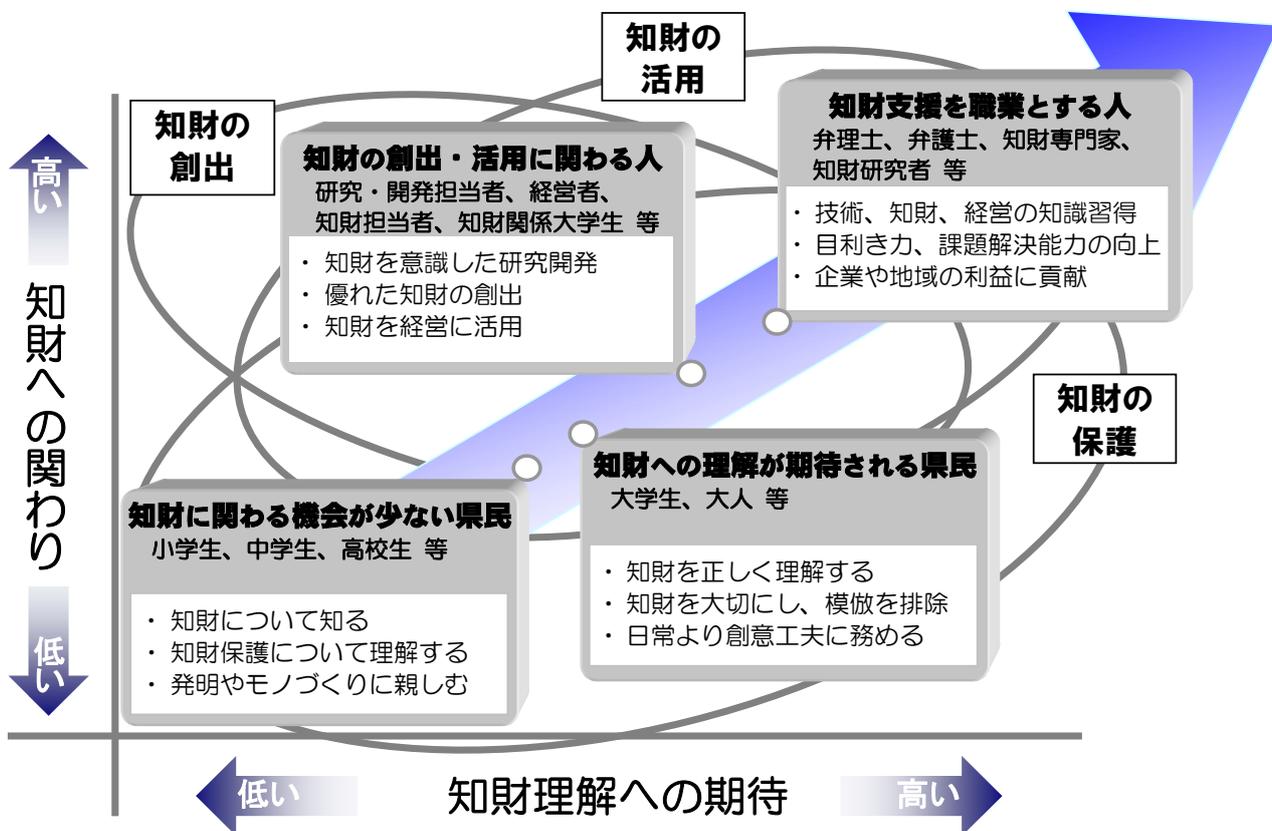


### 主な取組

#### 知財を大切にすることが気運の醸成

知財を活用して企業や地域の活性化を図るためには、知財の「創出」、「保護」及び「活用」が循環する、知財サイクルを実現することが重要です。その知財サイクルに関わる全ての人が、知財について正しく理解し、それぞれの役割を果たしていくことが求められます。

このため、広く県民を対象として、知財を大切にすることが気運の醸成に努めるとともに、それぞれの役割に応じた人材の育成や啓発活動を実施します。



## 📌 「ニセモノ」を許さない地域の実現

インターネットやモバイル機器の普及により、模倣品の販売やゲーム・音楽などを違法に配信するサイトに接する機会が増加し、誰もが模倣品や違法コンテンツを容易に入手できるようになっているとされています。このため、子どもから大人まで、幅広い県民を対象として、知財の大切さを知っていただく取組を展開し、ニセモノを許さない地域を目指します。

## 📌 若年者に向けた知財教育・モノづくり教育への取組

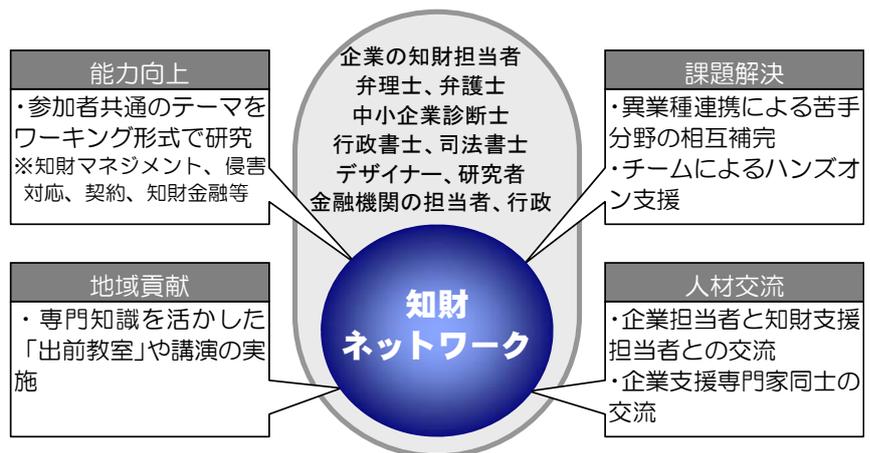
モノづくりに支えられる本県では、古くから発明や技術を尊ぶ風潮が強く、優れた人材を輩出してきました。しかし、近年、少子化や理科離れの影響もあり、モノづくりを目指す子供が減少し、また、県内理工系大学への志願者数も減少を続けています。

このため、将来の愛知を支える産業人材の育成に向け、教育委員会や関係団体と連携した知財教育や、少年少女発明クラブの活動活性化に向けた支援を進めます。

## 📌 知財支援人材の能力向上・ネットワーク化に向けた取組

企業や地域のニーズが多様化する中、知財担当者には、技術や経営、デザインなど、知財に関する幅広い知識が要求されるようになりました。しかし、一人の担当者が、これら全ての知識を身につけ、対応することは大変困難です。

このため、知財専門家を核として、弁護士、中小企業診断士、行政書士、司法書士、デザイナーなど、様々な立場で知財に関わる者が、人的ネットワークを形成し、連携して支援を行うことができる仕組みを構築します。



## 目標

### 「愛知の発明の日」関連事業への参加者

➡ 5年間の累計で200,000人(現在平均15,000人/年)

### 創意工夫功労者表彰\*受賞者数全国一位の継続

➡ 受賞者数全国一位の継続(現在20年連続で全国1位)

### 知財支援人材の「ネットワーク組織」の設立

➡ 登録者100名

### 全日本児童発明くふう展\*における恩賜表彰・特別賞受賞者数

➡ 5年間の累計で10名(過去5年間4名)



創意工夫功労者表彰：優れた創意工夫により、科学技術の進歩や改良に寄与した個人等を文部科学大臣が表彰するもの。  
全日本児童発明くふう展：(社)発明協会が開催する、子供たちの発明と工夫の全国展。恩賜表彰と14の特別賞などが選ばれる。

## 知財を大切に作る気運の醸成

### ●表彰制度への積極的な応募の奨励、新たな県独自の制度の検討

- ・創意工夫功労者表彰の受賞者数全国1位の継続
- ・第10回「愛知の発明の日(H25)」に向けた、新たな表彰・顕彰制度の創設の検討(新規)

愛知県の創意工夫功労者表彰者は、平成23年度275名(全国総受賞者数982名)。平成4年度から連続で全国1位。

### ●「愛知の発明の日」及び関連事業への参加の促進 **重点**

- ・「愛知の発明の日」の関連イベントの見直し、広く県民が参加できるイベントの開催
- ・連携事業の拡大や効果的なPRを通じた、「愛知の発明の日」の更なる周知

愛知県では、8月1日を「愛知の発明の日」と定め(独自設定は全国自治体で唯一)、その前後に各種イベントを実施している。

### ●模倣品や違法ダウンロード撲滅を呼びかける啓発活動の実施 **重点**

- ・子どもから大人までを対象とする知財尊重を啓発するキャンペーンの実施(新規)
- ・ネット利用教育等と連携した著作権教育等の実施

海外における模倣被害が深刻化する一方で、模倣品輸入も高い水準で推移。

### ●知財を活用した社会貢献の推進

- ・特定テーマ(環境等)における産学官の知財を集約し、有利な条件で開放するリストの作成(新規)
- ・COP10\*における知財をめぐる新たな枠組みについて、県民への周知を進める(新規)

世界経済人会議は、環境に寄与する特許について相互に無償開放を行うエコパテントコモンズを設立。

COP10では、植物や微生物などの遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する国際的な枠組みが話し合われた。



### 知財コラム

#### 豊田佐吉と愛知の発明の日

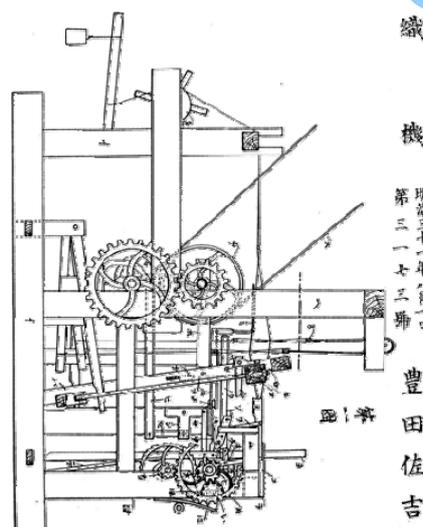
明治23年4月、第3回内国勸業博覧会。毎日のように会場に足を運び、展示された織機を眺めている青年がいました。その名は、豊田佐吉。言わずと知れたトヨタグループ創始者にして、我が国の10大発明家の一人です。

それからわずか1年後、佐吉は最初の特許となる木製人力織機の特許を取ります。それから改良を続け、明治31年8月1日、ついに、佐吉は、発明を志した当初からの目標であった日本初の動力織機の特許を取得しました。佐吉にとって、3件目の特許でした。この8月1日が、愛知の発明の日の起源となっています。

その後も、次々と特許を出し続けた佐吉は、昭和4年に、技術力で世界最高水準といわれていたイギリスのプラット社に対し、自動織機の特許権を10万ポンド(今の日本円にして数十億円)で譲渡しました。佐吉は翌年亡くなりますが、その10万ポンドを元手に、自動車開発がスタートしたと言われています。佐吉が生涯に取得した特許は84件、実用新案は35件、外国特許は13件でした。

なお、佐吉は、大正14年、帝国発明協会に対し、「ガソリンエンジンを上回る蓄電池」の発明懸賞金として100万円を寄付しています。電気自動車が実用化を迎えた今日でも、佐吉の夢は、まだ終わっていません。

図は、佐吉が明治31年8月1日に取得した動力織機の特許発明明細書の一部です。「特許電子図書館：IPDL (<http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl>)」で今でもご覧いただくことができます。【検索方法】IPDLトップページ→特許実用新案検索→1. 特許・実用新案公報DB→「文献種別」C「文献番号」3173



6



COP10：平成22年に名古屋で開催された、多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するための国際条約である「生物多様性条約」の締約国による10回目の会議。

## 知の時代を担う人材の育成

### ●開発・知財・事業戦略をトータルで担う人材の育成

- ・研究者や知財支援人材を対象とする知財エキスパート研修の実施（新規）
- ・科学技術コーディネータや経営アドバイザーを対象とする知財の研修の実施

県は、平成20年度から、知財人材のネットワーク構築に向けた研究会を開催。延べ1146人が申込み、356人（実数）が参加（全18回中5回以上参加者は約74名）。

### ●知財支援人材のネットワークの強化 **重点**

- ・知財人材を組織化する「ネットワーク組織」の設立（新規）
- ・「ネットワーク組織」において、知財支援・活用に関する研究会を立ち上げ（新規）

### ●少年少女発明クラブの活動に対する支援

- ・発明クラブの活動活性化に向けた支援
- ・発明クラブ空白地域において、発明クラブと連携した「発明教室」等を開催（新規）

県内の発明クラブでは、平成20年から、「知恵と子ども競技大会」を開催。毎回300人以上の子供たちが参加し、知恵と技を競っている。

### ●教育委員会と連携した知財教育・モノづくり教育の拡充 **重点**

- ・小中高等学校や高等技術専門校への「知財出前教室」の開催や指導者研修の実施、専用教材の作成
- ・総合技術高等学校（仮称）の新設に向けた、新たな知財教育プログラムの作成（新規）

工業の各分野を幅広く学び、総合的な知識や技術・技能を習得させ、教育や大学・産業界と連携した、より実践的な教育を行う総合技術高等学校（仮称）が平成27年に開校予定。



### 知財コラム

#### 夢を育てる・夢をつなぐ ～地域が人を育て、人が地域を育てる～

株式会社デンソーの一面に、その施設はあります。全国に200以上ある少年少女発明クラブの中で、最初に設立され、最大規模を誇る「刈谷少年発明クラブ」です。毎年、800名前後の子ども達が、市内を中心に、時には県外からも集まってきます。愛知教育大学が行った調査では、「発明クラブへの入会で理科好きの度合いが変わったか」という質問（クラブ員213名）に対して、入会半年では「変わらない」と答えた会員が38.7%であるのに対して、一年後には、「好きになった、大変好きになった」が100%となるなど、地域の理科教育にも大きな貢献をしています。

「刈谷少年発明クラブ」の第1期卒業生である酒井泰幸さん。現在はデンソー社員となり、QRコード※読み取り機やハイブリッドシステムの開発等に携わる傍ら、今でもボランティアでクラブの講師をしています。

地域が育てた人材が、今度は、地域に貢献するようになる。ここには、発明クラブが目指す一つの姿があります。

「子どもの頃は、ここに来るのが楽しかった。宝の山だったから」。そう話す酒井さんは、今でも新しい夢を求めながら、その気持ちを次代にも伝えようとしています。



刈谷少年発明クラブ HP より



このQRコードには、少年少女発明クラブの提唱者で、少年時代を愛知県で過ごしたソニー（株）創始者井深大氏の名言（270文字）が書かれています。



QRコード：デンソーの開発部門（現在はデンソーウェーブ）が開発した2次元バーコード。部品管理等のために考案されたが、広く仕様が公開されたことから、様々な用途で利用されている。なお、「QRコード」という名称はデンソーウェーブの登録商標（第4075066号）。